

2015 年 3 月 29 日「新しい基台」

＜ 聖書箇所 ＞「マルコによる福音書 1 章 16 節～20 節」

さて、イエスはガリラヤの海べを歩いて行かれ、シモンとシモンの兄弟アンデレとが、海で網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。また少し進んで行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。そこで、すぐ彼らをお招きになると、父ゼベダイを雇人たちと一緒に舟において、イエスのあとについて行った。

＜ 説教抜粋 ＞「新しい基台」

今日の聖書の拝読箇所は、マルコによる福音書 1 章 16 節～20 節です。この箇所には、イエス様が、ガリラヤの海辺で二組の兄弟を伝道した記事が書かれています。一組目は、シモンとシモンの兄弟アンデレで、もう一組は、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネです。

彼らは共に、ガリラヤの湖で漁師をしていました。イエス様がペテロとアンデレに「わたしについてきなさい。」と呼びかけると、二人はすぐについて行ったとあります。また、ヤコブ、ヨハネに対して呼びかけたところ、やはり、すぐについて行ったとあります。

この兄弟たちは、本当に、イエス様の招きに即座について行ったのでしょうか。また、イエス様が、ガリラヤの海辺でこの兄弟たちに会ったのは偶然だったのでしょうか。ここで、聖書の別の箇所を見てみましょう。ヨハネの福音書の冒頭ちかくには、アンデレとヨハネが登場します。

彼らは、エルサレムからほど近いヨルダン川のほとりにいたようです。実は、この二人は、洗礼者ヨハネの弟子でした。聖書には、洗礼者ヨハネがイエス様に会った場面が書かれています。その時、洗礼者ヨハネはイエス様を指して、「見よ、神の子羊。」と証言しました。その言葉を聞いたアンデレとヨハネは、イエス様の元に近寄り、話しかけたと言うのです。

イエス様は二人を招き、話をするようになりました。さらに、アンデレは、兄ペテロをイエス様に紹介しております。つまり、ガリラヤでの出会いの前から、兄弟たちはイエス様のことを知っていたのです。一方、洗礼者ヨハネは、イエス様を不信してしまいます。

つまり、洗礼者ヨハネを中心とした基台は、洗礼者ヨハネの不信によって、み意に叶うような役割を果たすことができませんでした。その後、イエス様は、四十日四十夜の断食祈祷

をすることになります。荒野での断食祈祷の後、イエス様はガリラヤを目指して出発されました。

それではなぜ、イエス様は、ガリラヤに行かなければならなかったのでしょうか。その理由の一つは、既に面識があったペテロ・アンデレ・ヤコブ・ヨハネ、言い換えれば、失ってしまった弟子たちを探すためであったと言えるのです。一度結んだ心情の因縁をたどり、イエス様は、ヨルダン川のほとりから、遠いガリラヤの地を訪ねたのでした。

イエス様はペテロとアンデレに「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と言います。すると、彼らはすぐに網を捨てたのです。しかし、その出来事の背後に、既に培われていた心情の因縁と、イエス様の愛があったということを忘れてはなりません。弟子を訪ねたイエス様の姿は、私たち一人ひとりを訪ねてきた神様の姿でもあります。その人にふさわしい形で、神様は訪ねてこられるのです。